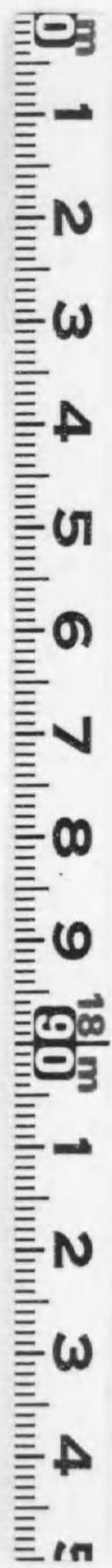


特116

713

放生所  
 須原氏  
 胡蝶  
 松虫  
 一角仙人  
 三

713  
 188



始





世間人

世間人

世間人

世間人

世間人

世間人

世間人

世間人

世間人

世間人

世間人



放生川

男山放生會に參詣して奇特に逢ふ事を作れり

須磨源氏

須磨の浦は光源氏の暫く生まれし所あれば其靈あらはれて昔を語る事を作れり

胡蝶

蝶は大方の花に親しむ習あるに只梅花に縁の無き事を嘆きて法華經の功德を頼みに來れる事を作れり

松虫

松虫を愛せし人の亡者來りて酒を飲み舊事を語り舞遊ぶ事を作れり

一角仙人

一角仙人といふ者龍神を岩屋に封せし故に雨のふらぬを帝歎かせ給ひ美人を遣はして仙人の神通を失はしめしに龍神岩屋を出て仙人と戦ひ終に雨をふらせる事を作れり

八月神祇祝言初能也

放生川

位序 前シテ老翁 後シテ武内神璽 所ハ山城 所ハ山城 所ハ山城



脇  
三大臣

御影とあやぐ此君はく。四芳、  
松見の鹿鳴は神職

度部よらり。洛陽乃寺社跡をく。皆、

由りく。又しは南祭乃由。皆、

や。備よ。事。皆。申。さ。る。也。と。い。ふ。依。三。人。上。ハ。一。一。

















おとさあまきば魚いりぎき抄あつが懸  
 けく物さる河おきぬ神たあが  
 とあまありワヤカル今ありあはる  
 うれ梅あま教いのその河謂を  
 何ぞぞワヤカル異國長治乃河時みね  
 くだ敵とさほし給ひ。まきあうれ  
 善根うその為よ教まね河をたて

一、ワヤカル 謂とまけは方程やうきく  
ワヤカル したと教つめふりから座きね程やう  
ワヤカル 河久河の水老濁りも神  
 とくれワヤカル ちりひき清き名流きづの  
ワヤカル ともきつりぞけり老 岸よなぞ  
ワヤカル 水桶シテお上り下り洗うろくを  
 ありワヤカルくもひも同し神をたて







居クセ

一、人佛不二乃淨心クセ。正直クセなり。  
 べクセふクセわクセらクセりクセ給クセふ。  
 他クセのクセ人クセよりクセもクセ穢クセ人とクセ擧クセげクセりクセせクセ給クセふクセ淨クセめ。  
 今クセこクセろクセけクセおクセ有クセ種クセやクセ種クセらクセあクセらクセまクセいクセれクセあクセさ。  
 まクセしたクセ事クセ百クセとクセてクセらクセしクセ給クセさんクセたクセ給クセふクセ給クセふ。  
 新クセまクセたクセあクセらクセりクセ行クセ教クセをクセとクセ奉クセらクセうクセ乃クセ淨クセ法クセ。  
 乃クセ袖クセ子クセ陰クセらクセひクセのクセたクセのクセ都クセ淨クセちクセらクセんクセとクセ南クセ。

此山クセふクセもクセ毛クセ凡クセたクセびクセらクセりクセもクセまクセのクセ夜クセ半クセ。  
 まクセうクセけクセりクセ給クセふクセ給クセふクセたクセらクセもクセ宗クセ廟クセたクセ給クセふ。  
 あクセらクセまクセらクセあクセらクセもクセたクセのクセまクセとクセあクセるクセ道クセ行クセのクセ。  
 死クセりクセしクセ國クセをクセもクセ民クセ乃クセ海クセとクセ遊クセみクセはクセあクセらクセ。  
 鄙クセ乃クセまクセのクセ舟クセ四クセ海クセのクセ波クセをクセまクセつクセらクセあクセりクセ。  
 新クセ利クセ益クセ法クセをクセたクセらクセしクセ所クセ也クセとクセひクセ二クセ世クセ安クセ樂クセ乃クセ。  
 我クセ徳クセをクセたクセらクセほクセさクセらクセあクセらクセくクセやクセ男クセ山クセよクセしクセ松クセ。







































卷のららあまもや雲くもくくもわわしてぞうせふ  
 きねこ雲隠いくくままふふりり更更ねねのの深深み  
 け大將お帳帳まま人人回回ととぎぎりり。神かみよよのの成なり  
 かかももろろのの境さかいいいだだもも今いま宵よるののままにに花はなと  
 於おもも奇き我われととおおままんんとと須す廣ひろ乃のううららのの聲こゑ  
 山の月やまのつきはは枝えだ子こままををくく心こゝろとともも由よしのの磯いそ枕まくら  
 彼あままたたくくとと多おほ樂たのしみののままのの聲こゑをを何いかにりり

後太夫  
 面中稱冠  
 着附指貫  
 單持衣扇

かからら見みくくとと出で舞まるる面おもて白しろれれ海うみ系けいををおお持も持も  
 染ぞもも有ありり時ときがが光ひかり深ふかみみととややもも手てをを今いまううららとと何いかに  
 にに入いるるもも天あまととれれ後のち居ゐるるれれたた月つきはは輝かがやくとと  
 圖え像いままををささりり。可よもも須す戸とのの浦うらななままささるる。青あお  
 海うみ波なみのの遊あそ舞ま樂たのしみよよひひををくく月つきはは光ひかりとと花はな  
 乃のちちもも入いるるももああるる。波なみのの花はなちちるる。白しろ衣え乃の袖そで  
 玉たまははるるのの多おほ珠たま澄すみとと水みづのの深ふかみみ。笙しょう笛ふエ琴こと











吉野のぶら糸の雪まじりたてを  
花にそぎあるちる風乃吹くる象  
乃山あえてかほむそあや三笠山  
あぎさおぞあもあつたのち  
まじりちるまの道まぐはまの丸丸都  
は穂あきりく<sup>白</sup>氣はる。程あり  
都のまじりちるまの丸丸都

一々大宮と卯守の心静よ一見せ  
たやと思はるは具成可とらまは  
よ有き古宮乃軒乃ひひの  
平若むして<sup>トカレ</sup>むらあひぬ乃忘  
き草。然よ有<sup>ト</sup>可あり又  
車よ現るやとりあふ。染の  
乃ひまよりなれづ。乃



























花物珠も枝とめらりめらり  
 や由車乃流よひつらつら  
 胡蝶もうめつ不さの舞乃次女と珠  
 其や雲乃おのめつ雲よきうちう  
 あまはつそよまうちうつて霞よま  
 ぎれてう珠よまきり

七月 四番目物

松虫

位破 前レテ 客人 ツレ男  
 竹ハ 横津 ワキ市人

脇

素袍男

是ハ津乃國河部野乃あつりに住居  
 其者まぐ作れ我ハあな形乃の市あり  
 出く酒と賣るる女より所くさし  
 ころ紀男れ較多きあり酒とめえぬ  
 酒は酒宴とめしてあなりの行と  
 中し不審よの問今うはもありてん



舟上亮 中位

ヨク

りづらあまのそご各所尋ねて  
 まこと秋をよみしは  
 友を悲かきし  
 長月れ有分あまの朝うかよ袖ゆき  
 けぐり市人装束ひ出れ道は遠  
 ちあきる露も深みどり  
 色は養代夜日もあづきの若路も

大夫  
 放髪着附  
 大口拭素袍  
 扇笠  
 ツレ男二三人  
 太夫ト同断  
 笠ナシ

ありうき遠くまのうら  
 乃江をうらうら  
 錦の秋意草しく  
 浪やうしてきこえあはれ  
 かむくはまの  
 原を面白やく  
 酒切捨身と作



志らばく市原歌の松とともありて  
 ありてよもく人をも物たりといふに  
 人酒をまじりて 雑宿を菊うる市に  
 ありてよもく 芳乃がよみ人おちかき  
 壺ももぬききりてぬくも人  
 面よ醗酒とぬくもあし人  
 ありてよもく 放人の集むるも  
 ありてよもく 放人の集むるも

酒をまじりて 遊樂を舞乃和身とぬ  
 人きりて 慰めぬ人もあはれぬ  
 ありてよもく 何れも早もあはれぬ  
 中へのあはれぬもあはれぬ  
 給あまよ 松原かたなりあはれぬ  
 け酒をまじりて 松原かたなりあはれぬ  
 乃まよ 菊うるもあはれぬ



シテカレ

美景シテカレのよみとけり新入 櫻田前よ

磯シテとせしあぐシテは日暮シテきりかたシテを

つらシテとて杖シテの風シテあつて酒シテ乃

非シテ深シテくシテ樂シテしシテまシテくシテはシテ花シテのシテまシテに

海シテらシテんシテとシテいシテふシテまシテれシテいシテだシテやシテ酒シテとシテあシテは

きシテ母シテをシテ後シテさシテるシテたシテくシテはシテ酒シテ乃シテあシテは

夜シテはシテ花シテのシテ清シテるシテ月シテ影シテ乃シテ後シテはシテ花シテのシテうシテま

早稲

どシテ方シテのシテ画シテはシテむシテしシテきシテもシテ程シテまシテりシテのシテ草

あシテもシテせシテれシテ杖シテとシテもシテ限シテらシテずシテはシテ松シテ虫シテをシテ音シテをシテ

はシテみシテしシテ磯シテ集シテまシテれシテるシテ花シテのシテ影シテとシテあシテは

こシテもシテはシテ買シテえシテるシテおシテちシテりシテたシテらシテあシテれシテく

しシテてシテ申シテさシテるシテおシテもシテれシテはシテ花シテのシテ影シテとシテあシテは

音シテのシテあシテはシテむシテしシテてシテ花シテのシテ影シテとシテあシテは

あシテもシテしシテてシテはシテ花シテのシテ影シテとシテあシテは







松平此く昔もあそりなく市人の  
来迎へてあそりなく靈愛に集り  
たも體も日くあそりなくたね  
市人乃知かげは陽をてあべ野乃  
かそり陽もきりくウゆまは  
ては世もあそりなくあそりなく  
たほごのあそりなくあそりなくあ

給へ上抄帝秋の言上松出もなくあそり  
抄も待色あり上そもあそり  
むし音の抄もあそりなくあそり  
うらぬ言上出れもあそりなくあそり  
あそりなくあそりなくあそりなくあそり  
あそりなくあそりなくあそりなくあそり  
あそりなくあそりなくあそりなくあそり

あそり

あそり







春の虫の音もあられして上カレヨクまを  
 受ふ草ぐらうは浦の難波乃まを  
 ちるニテ中あな乃市大初て早あな  
 人毛レテあな乃市大初て早あな  
上高あな乃市大初て早あな  
サテあな乃市大初て早あな  
ニラニあな乃市大初て早あな  
 春の虫の音もあられして上カレヨクまを  
 受ふ草ぐらうは浦の難波乃まを  
 ちるニテ中あな乃市大初て早あな  
 人毛レテあな乃市大初て早あな

春の虫の音もあられして上カレヨクまを  
 受ふ草ぐらうは浦の難波乃まを  
 ちるニテ中あな乃市大初て早あな  
 人毛レテあな乃市大初て早あな  
上高あな乃市大初て早あな  
サテあな乃市大初て早あな  
ニラニあな乃市大初て早あな  
 春の虫の音もあられして上カレヨクまを  
 受ふ草ぐらうは浦の難波乃まを  
 ちるニテ中あな乃市大初て早あな  
 人毛レテあな乃市大初て早あな



秋の野 露を衣にして 虫は 出ても 安んじ  
一樹乃陰の宿り  
毛他生れ縁と交わると 河の流す水  
て 志るも心は清く 泉も奥の深き  
志乃菊の水も 花も 心も  
ま 別流多れ 益を 先ん び 心  
あり 志は 盧山 あり 心も 安ん じ

ぬ室乃戸 志其戒と 破り 志 心  
清く 思ふ 此露乃 玉の けいせ 地  
道と 心も 志 心 志 心  
志 志 志 志 志 志 志 志  
か 志 志 志 志 志 志 志 志  
道と 心も 志 心 志 心  
あり 志は 盧山 あり 心も 安ん じ







一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

十月 切ノ能也

一角仙人

位破急 シテ一角仙人  
所ハ天竺 ツレ龍陀夫入  
ワ官人

作り物 庵ト岩  
一疊臺

太夫  
面一角仙人 黒頭  
駝斗目 長水衣  
木葉裳 帯 劔  
唐團扇持  
龍神二人  
劔持

ツレ女  
面増女 天冠  
大口舞衣 扇  
コシカキ 二人  
大口モギドウ

脇  
放髪 バザラ 大口  
法被 帯 劔 扇

早<sup>早</sup>の天竺<sup>チン</sup>波羅奈<sup>ナ</sup>國<sup>クニ</sup>乃<sup>ナリ</sup>帝王<sup>テイ</sup>王<sup>オウ</sup>  
 仕<sup>シ</sup>人<sup>ニ</sup>なる<sup>ル</sup>法<sup>ハ</sup>下<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>。柳<sup>ヤナギ</sup>を<sup>シ</sup>洗<sup>ヒ</sup>ぬ<sup>ル</sup>傍<sup>ナリ</sup>。一  
 人<sup>ハ</sup>乃<sup>シテ</sup>仙人<sup>ト</sup>あり<sup>シ</sup>。鹿<sup>カ</sup>の胎<sup>イ</sup>内<sup>ノ</sup>に<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>り<sup>出</sup>  
 生<sup>マ</sup>じ<sup>キ</sup>敷<sup>キ</sup>子<sup>ヲ</sup>より<sup>シ</sup>。額<sup>ヒタヒ</sup>は<sup>シ</sup>角<sup>ノ</sup>あり<sup>シ</sup>。生<sup>マ</sup>  
 り<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>。是<sup>レ</sup>ハ<sup>シ</sup>信<sup>ニ</sup>く<sup>ル</sup>その<sup>ノ</sup>名<sup>ヲ</sup>曰<sup>ク</sup>一角  
 仙人<sup>ト</sup>あり<sup>シ</sup>。けり<sup>シ</sup>子<sup>ヲ</sup>細<sup>ク</sup>方<sup>ク</sup>く<sup>テ</sup>龍<sup>ヲ</sup>祿<sup>ス</sup>と



威とあらそひ仙人神通と必く。  
 諸竜とあそぐ岩屋乃内は封  
 じこむ回数日雨とさす御門  
 此子と務まぬるを此方便と  
 由つゆ日る爰に接應入とさくお  
 らびさるま美人の口を強がと迷ひ  
 きたる後とさるさくして仙境の家

の境にさく入るは仙人の神也と  
 先より主かまきりの所方便と  
 已さるるまはさるるまと彼山登  
 ら入依モト上立山道とさるる雲行客の  
 跡とさるる松とさるるまは後と  
 乃さるる破るるり孫あや上あ露時  
 雨とさるる山陰とさるる下とさるる























一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

大正三年六月拾五日印刷  
 大正三年六月二拾八日發行



大坂府西成郡中津町大字下三番  
 七十六番屋敷  
 増補訂正  
 相續者  
 大喜多信秀

大坂市北區源藏町十番地  
 發行者  
 無印刷者  
 富、永、久、世

大坂府西成郡中津町大字下三番  
 七十六番屋敷  
 發行所  
 常、磐、會



88  
187



大正三年六月二日  
大正三年六月五日



終

